

この街に
この人あり

自分流に描き続けた 杉並の風景画



大瀧 安良さん

40歳を過ぎた頃、仕事先の風景などから描きはじめ、現在は挿絵の依頼や水彩画教室の指導に忙しい大瀧安良(おおたき・やすよし)さんにお話を伺いました。

杉並の街並みを描き始めたきっかけは

高校時代から好きで描いていましたが、2000年に自宅近くにある本天沼の友人宅を描いたのがきっかけとなり、教会通りや大田黒公園等300点ちかくの作品を描きました。最近では杉並から見える空の絵を描いています。

地域の皆さんとの交流は？

2001年より杉並風景画の展示会を定期的で開催することができました。それが縁で地域の方々とも交流ができ、2009年に西荻地域区民センターで水彩画の講習会を開催しました。これを機に水彩画の同好会が発足し、現在に至っています。



水彩画教室にて



大田黒公園のピアノ修復の
パンフレット

2010年には大田黒公園にある古いピアノの修復募金活動の一環として、パンフレット用にピアノの絵を描きました。

また、この12月2日～7日には荻窪の術芸館でアクセサリー作家と一緒に展示会を開く予定で、地域の方々との交流を楽しみにしています。

今後の活動についての思いがありましたら

60歳を過ぎて自由な時間が増えましたので、変わりつつある街並みの姿や、行き交う人々、動物、植物、そして杉並から見える空を水彩画で仕上げていきたいと考えています。

趣味としてはリコーダーを練習しております。年に数回ある発表会も楽しみで、こちらも続けたいと思っています。



荻窪の瓦屋根とケヤキと青い空



教会通り「煎餅店」